



「あんぱん」モデル

やなせたかし が 生きた時代

ぼくは戦争は大きらい



はじめに

この本は、ぼくの体験を綴ったものです。

自伝などの中で簡単に戦争のことをお話したことはありましたが、戦争体験だけをまとめて話すのはこれが初めてです。

ぼくは、昭和 15 年から 5 年間、日本軍の兵隊でした。でも、よほど運がよかったのか、激戦地には行かずに、大きな戦闘も経験せずに生きて日本に戻ってきました。

ぼくはもともと、戦争も軍隊も大きらいです。戦争のことを思い出すのも、話すのも嫌だったので、これまでほとんど戦争のことは語らずにきました。長年一緒にいるスタッフにも、戦争の経験はほとんど話したことはありません。

たまに、「ぼくは兵隊に行ったことがあるんです」とお話ししても、「嘘でしょ」という反応が返ってくることがほとんどでした。それくらいに戦争のことは、きれいさっぱりと忘れていたのです。

今頃になって、なぜ戦中のことを話す気になったのか、というと、ひとつにはぼく自身が 90 歳を超えて世代にはもう戦争を語れる人がほとんどいなくなったことがあります。

戦争を語る人がいなくなることで、日本が戦争をしたという記憶が、だんだん忘れ去られようとしています。人間は、過去を忘れてしまうと同じ失敗を繰り返す生き物です。

ぼくは、お墓も戒名も決めて、いつ死んでもいい状態だからいいのですが、もし日本が戦争になったら若い人たちがかわいそうです。

激戦地で大変な思いをしたみなさんからすれば、「なんだ、本当の戦争はこんなものじゃなかった」とおしかりを受けるかもしれません。でも、ぼく自身の戦争体験、軍隊体験を語ることで、過去の戦争のことがみなさんの記憶に少しでも残ればいい、と思います。

新装版 『ぼくは戦争は大きらい やなせたかしの平和への思い』 P2～P3(株式会社小学館、2022 年 12 月 13 日初版第一刷発行)より